

深谷・七ツ梅の活性化／新しいライブ空間の提案

八代研究室

00812113 町田 淳

1. はじめに (図1)

深谷駅北口から北へ歩いて行くと東から西へ伸びる旧中山道の商店街に突き当たる。商店街の一番西側に「七ツ梅」と呼ばれる場所が存在する。ここはかつて、田中藤左衛門商店により酒造業が行われる酒蔵であった。現在は、「一般社団まち遺し深谷」が主体となり酒蔵を改装して複合施設としている。現地を訪れると深谷という町を愛し、廃れてきている商店街を活性化させようという意志の高さを感じることができた。私はこの地域愛に共感し、七ツ梅を通して何か力になることが出来ないかと思い今回の提案をするに至った。

2. 七ツ梅について (図2)

現在の七ツ梅は、先に述べた通り「一般社団まち遺し深谷」が運営を行なっている。複数の酒蔵はそれぞれ改修され、映画館・カフェ・瓦作り体験工房などの他にイベントの会場としても使用され、マーケット・講習会・演劇会などが開催される。また、ロケーションの良さから映画やドラマのロケ地としても活用されている。

3. 問題提起

現在、深谷市においても少子高齢化が進んでいる。また若者が興味を持てるような空間が少なくなっているように感じられる。発達した交通機関により交通網は便利になる一方で、市民の暮らしや住んでいる年代が分断されているように思える。

4. 深谷市との関連性

本計画では深谷市全体の活性化が大きな目的である。ライブハウスという生の音、生活感に触れ、更に比較的若者向けの空間を提供することにより若年層を呼び込む。また、その受け皿として随所に深谷市を意識させる煉瓦などの素材を挿入し深谷市に興味を持つきっかけをつくる。

5. 計画内容 (図3・図4)

従来のライブハウスと違い、音楽を演奏する場を一つに固定しない。大きく分けると3つのライブ空間があり、それぞれが有機的に繋がる存在になる。奥へ進むほど、より濃密な音になっていく空間をイメージし計画した。

①屋外ライブ空間

深谷シネマ（西蔵）と東蔵の間に砂利の広場がある。その広場に台をいくつか設置し気軽に音楽を演奏できる空間とした。コンセントなどは無く、アコースティックな音楽が主となる。地面は煉瓦の仕上げとし、深谷市との関連を強める。

②路上ライブ空間

東蔵の外壁の一部をセットバックさせ、そこに生まれた空間を使用する。屋外のライブ空間と違い、小さな電子機器を使用できるようにする。壁をセットバックする事により特別なものという意識を観客に持たせる。

③屋内ライブ空間

東蔵を改修しライブ空間とした。2つのライブ空間を通り抜けた先に入口を設け音の中を通り抜ける感覚を演出する。通路を通る時に路上ライブ空間へ出ることもできる。これによりホールでの出演者が休憩中に立ち寄ることができる。ホールに入った時のインパクトを大きくする為の設計上の演出として通路はホールに対して狭く設計した。また、簡易なCDショップを併設し若年層の訪問の増加を狙った。

6. まとめ

ライブを見る事が終点ではなく、深谷市に対する興味・関心の始点となることを目標に設計を進めた。

【謝辞】

この提案をするに伴い、協力して頂いた一般社団まち遺し深谷の皆様へ感謝したい。

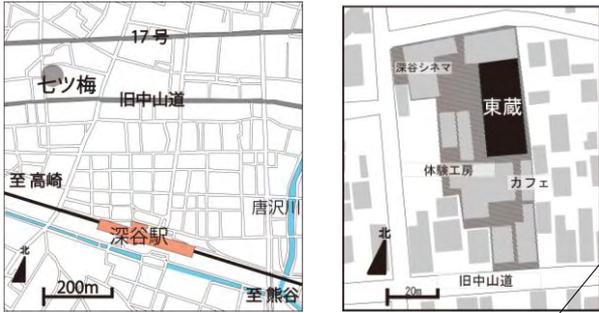


図1. 深谷市・七ツ梅 敷地図

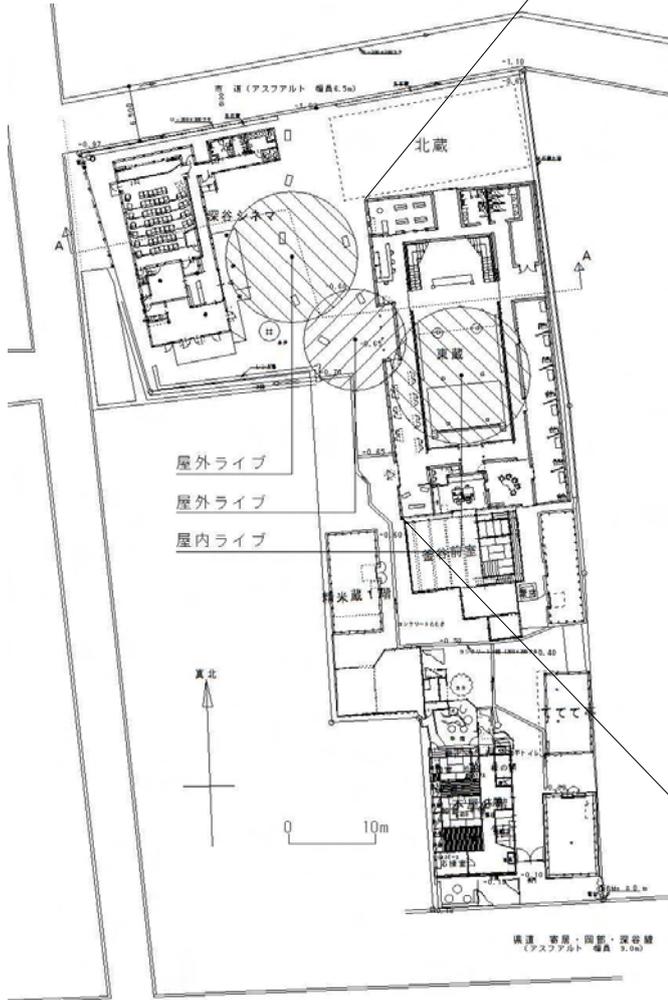


図2. 七ツ梅配置平面図

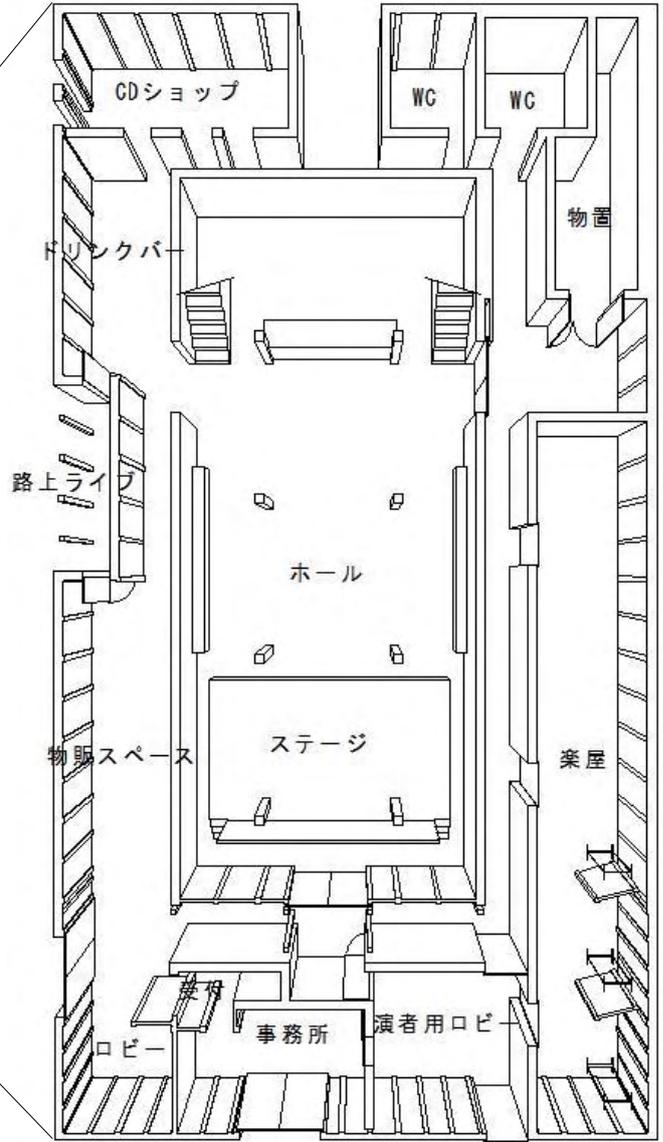


図3. 平面パース図

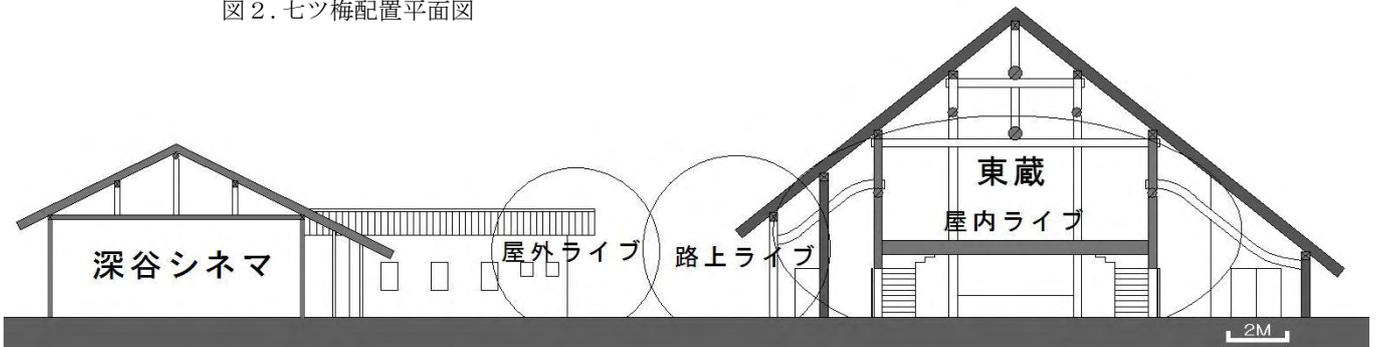


図4. A-A断面図